

ララはしば商店街 (橋波商店連合会)

大阪府守口市

地域を巻き込んだ取組で「活気がない」「暗い」のイメージを払拭

取組の背景

地域住民にとって必要とされ続ける商店街作りを目標

2014年に来街者や地域住民、商店店主等を対象に、商店街の利用実態やイメージ、商店街へのニーズ等に関するアンケートを行い、今後の事業や商店街の方向性を検討した。その結果、商店街店主の高齢化が進んでいることや商店街に活気がない、暗いというイメージがあることが判明した。しかし、評判のお店や商店街ぐるみでのイベントにニーズがあるとプラスに繋がる意見も存在した。そのため、ララはしば商店街としては子育て世代の商店街離れや地域住民の高齢化及び一人暮らしが多いこと等を課題と捉え、商店街は買い物をするだけの場所ではなく、子ども達やシニア層が気軽に集うコミュニティとしての機能を果たし、地域住民に必要とされ続ける商店街作りを目標とする取組を求められていた。



やる気地蔵

取組の内容

「5時から招店街」で繋がる地域住民との関係づくり

上記目標を達成する為、これまで次の取組を実施した。

1. 「やる気」でつなぐはしばまちづくり協議会」

同商店街は、近隣商店街、商工会議所、市役所、若手店主、女性等からなる協議会を設立。継続的に開催されている会議では前向きな話し合いがなされ、新しい事業展開、次世代の人材育成にも繋げている。また、毎月何らかのイベント等を行うことで、集客力の維持・拡大

に努めている。

2. 「5時から招店街」

活気がない、暗いというマイナスのイメージを払拭すべく始められた「5時から招店街」は、アーケードの下を居酒屋・食堂街に見立て、椅子とテーブルを並べ、参加者各々が商店街の各店舗で購入した総菜等を持ち寄り飲食するイベント。長時間滞在して貰うことを目的に、子ども向けの「ミニ縁日」をはじめ、カラオケ大会やプロレス観戦、ギター弾き語り等のステージイベントを同時開催している。地域住民と商店街が交流する場を作り、活気ある明るい商店街の雰囲気を作り出している。

3. 「やるきハロウィンinはしば」

子育て世代の商店街離れに対応する為の取組としてハロウィンイベント「やるきハロウィンinはしば」を開催。仮装した子ども達が自由に駆け回れるよう商店街を開放し、子ども向けにパン食い競争やワークショップを企画することで、商店街に明るさと賑わいをもたらしている。

4. 地元大学生等の若者との連携

同商店街が地域内外から注目を集める多数イベントを開催した結果、自らも商店街の活性化に協力したいという地元育ちの大学生や、サブカルチャーを広める活動をしている若者グループが企画を提案。それを元に共同で「ララはしば学園祭」やコスプレ等のサブカルチャーイベント「守口盛々異次元フェスタ」を開催し、域内外から多くの若者を集客している。商店街主催のイベントが若者の意欲をかきたて、自発的にイベントを企画・実施する等、相乗効果をもたらしている。



5時から招店街



ハロウィン仮装行列



取組の成果

新規出店3店とこども食堂と
いう先進的な取組

上記の取組を行った結果、喫茶店1店、青果店1店、こども食堂1店の新規出店に至る。

喫茶店は、商店街が活気づいた影響を受け、2018年5月に40代の希望者が新たに喫茶店を開店（空き店舗である元喫茶店に入居）し、高齢者等が集う憩いの場として賑わっている。

青果店は、チャレンジショップを継続利用していた方が、徐々に出店日を増やし、常設店化した。産直商品や手頃な価格の品揃え等、スーパーには無い小売店ならではの魅力がある。

こども食堂は、食材の仕入れに生鮮食品を扱う店舗の協力が得られたこと、大人の目がある安心安全な場所で子ども達も来やすいことから、商店街内に新店舗ができた。2018年8月当初は、チャレンジショップで月2回不定期開催としていたが、9月から毎週土曜日に定期開催するようになり、また近隣の大学生達と連携し、子

ども向けのクリスマススタンプラリーを企画する等、商店街の活性化に貢献している。

実施体制

2014年7月に、商店街をいつも利用しており商店街の存続を願う地域の方や近隣商店街、商工会議所、市役所等で構成する「やる気」でつなぐはしばまちづくり協議会」を組織化した。

継続的に地域住民に参加して貰うことで、地域商業の活性化及び高齢者対応等の地域課題解決のための意見交換の場を持ち、具体的な取組に繋げている。高齢化する役員に代わり、商店街の若手店主や二代目を役員にして企画等を任せ、地域の方の貴重な意見等を積極的に取り入れている。

また、「5時から招店街」では、各店舗から売上の1割を手数料として徴収し、広告宣伝費・イベント当日の経費の一部に充て、取組が適切かつ継続的に実施する体制が組まれている。

キーパーソンからのコメント

商店街だからできるコミュニティを目指して

店舗数の減少をくい止めようと、まちづくり協議会が発足しました。商店街を支えてこられた役員方の助言を取り入れ、若い世代を中心に新しいイベントを企画し、子どもからシニアまでが楽しめる内容となりました。大きなものは「やるき100円商店街」「5時から招店街」「やるきハロウィン」で、それぞれ特色を持たせマンネリ化を防いでいます。他にもガラガラ抽選会、夜市、絵画展覧会等、ほぼ毎

月なんらかのイベントを行っています。かつては高齢者中心の商店街でしたが、子ども達が往来する活気と懐かしさあふれる商店街に戻りました。複合型商業施設が進化する中、商店街は時代をさかのぼることのできる活気を取り戻すことが出来ると思っています。今後も子ども達はもちろん、親世代にも参加しやすいイベントを考案していきたいと思っています。



橋波商店連合会 企画部
稲葉 亜純

商店街の
概要

京阪守口市駅より700m位の所に位置する同商店街は、1957年かつての湿地帯を埋め立てて開発された土地である。その後、近隣地区1～2km圏内に大型店が続々オープンする中、商店街が生き残れるようにという決意の下、1982年に「新開地商店街振興組合」・「三和商店会」・「万来商店会」・「新開地中央商店会」・「橋波市場共同組合」の五団体で橋波商店連合会を結成し、共同歩調で進めている。地域の人々には「うらはしば商店街」の愛称で親しまれており、商店街のシンボルとして、捻り鉢巻に片膝を立て、握り拳でガッツポーズをしている「やるき地蔵」がある。その名が示すとおり、前向きな取組が活気をもたらし新規店舗の出店に繋げている。

- 所在地 大阪府守口市西郷通
- 人口 約14万人（守口市）
- 電話／ 06-6996-6085
- FAX／ 06-6996-6085

- URL <http://www.lala-hashiba.com/>
- 会員数 36名
- 店舗数 51店舗（小売業18店、飲食業11店、サービス業7店、医療サービス業7店、その他8店）

- 商店街の類型 生活支援型
- 主な客層 高齢者、主婦／60歳代、70歳代以上